

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170501795		
法人名	三愛商事株式会社		
事業所名	グループホーム里の家 平岸 しらかば		
所在地	札幌市豊平区平岸5条12丁目1-26		
自己評価作成日	平成24年6月1日	評価結果市町村受理日	平成24年8月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

--

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0170501795&SCD=320&PCD=01
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 ふるさとネットサービス
所在地	札幌市中央区北1条西7丁目1番地あおいビル7階
訪問調査日	平成 24 年 7 月 30 日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目: 23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求 めていることをよく聴いており、信頼関係ができ ている (参考項目: 9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2. 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3. 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
57	利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目: 18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3. たまにある <input type="radio"/> 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地 域の人々が訪ねて来ている (参考項目: 2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに <input type="radio"/> 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目: 38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の開 係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所 の理解者や応援者が増えている (参考項目: 4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている <input type="radio"/> 2. 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3. あまり増えていない <input type="radio"/> 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目: 36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目: 11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2. 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目: 49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごしている (参考項目: 30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2. 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らせている (参考項目: 28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	独自の理念があり職員は理念をただ単に理解するだけではなく、実践に努めている。①安心して～②生きがいを持って～③心豊かに～④地域に愛され馴染みある～生活が里の家でも続けられるよう日々学び、取り組んでいる。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	花いっぱい運動やラジオ体操に入居者さんと職員が参加している。花火大会には近所の子供達を招待したり、秋の子供神輿にはホームに寄って頂き賽銭箱に直接お金を入れる楽しみを味わいお菓子を用意するなど交流を図っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	1年に1回全ホームをあげて「里の家祭り」を行っており、地域のかたがの自由な参加・交流を図り認知症の方の理解を深めて頂いている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族代表の方、町内会長さん、民生委員、統括支援センターの方等にご出席頂き、毎回活発な意見が出されている。そのでの様々な意見を参考にサービスの向上に努めている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	管理者は必要に応じ行政に足を運び、積極的な繋がりを図っている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は原則的に行ってはいけない事を全職員が理解しており身体拘束のないケアを実施している。外部の研修にも参加し理解を深めている。又、札幌市内の交通量の多い地域にあることにより安全を確保する為やむを得ず電子錠をかけている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	防止に努めておりそのような行為はありませんが、今後も防止に努めていく。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	全職員が会議や研修に参加することにより知識を深めており必要に応じ活用が図られるようになってきている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者より十分な説明を行い、理解・納得を図っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	反映させている。意見箱の設置や本部に相談窓口を設けているが、入居者や家族の方々は自由に意見や要望を言える体制が出来ておりその都度改善を図るよう努めている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に本部の職員が現場に入り会議の際などに聞き取りを行い、その内容について本部で検討の上、必要と判断されたものについては反映されている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	本社職員が定期的に現場の確認を行い、その現状を代表に報告している。その上で職場環境や対応及び向上心に繋げる取り組みを検討し業務へ反映している。環境整備は特に随時現場の意見を聴取しながら必要な場合に実施している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内での研修の実施や採用経験年数と資質を考慮し多くの職員が外部研修に参加できるよう配慮している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	本部内による月1回の合同会議と管理者会議で情報交換が行われ、法人内の他グループホームと相互訪問の活動を通じて交流の機会を図っている。管理者は地域の管理者連絡会に出席し交流を図っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	言葉かけを多くするなど新しい環境に慣れて頂けるよう密接な関係作りに心がけ、傾聴した要望に対して可能な限り早期に実現し満足度につなげる努力をしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時に家族や入居者さんの不安や要望等を伺っている。又面会時や電話連絡時等に小さな事でもくみ取る努力を行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	努めている。(例 札幌市実施のオムツ支給事業使用について)		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様の生活経験を生かす事で、役割がある事を実感して頂く事ができ、共に過ごす関係作りを築いている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	密な連絡体制を継続する事でケアに関心を抱いて頂けるよう努め一緒に支え合えるよう実践している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの場所に出かけたりする事で、今までの関係が途切れないようにしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	会話や理解に困難がある方には職員がさりげなく介入し入居者様同士が良好な関係を持てるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居となられる際には事業者側で次の行き先について責任を持ち支援させて頂いており、退居後もご家族様が遊びに来て頂ける等の関係が築けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	健康に影響が生じない範囲で入居者の方々が安全に暮らせる為の実現に努めている。表現する事が困難な入居者様に対しては選び易い選択肢をもうけたり、筆談やジェスチャー等でもくみ取れる工夫をしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	バッググラウンドの把握に努め、新しい生活の場において入居者の方々が混乱を生じない為の配慮を十分に行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	画一的なサービスの提供に陥る事なく入居者の方々の気分転換を大切にサービスの提供に努めている。又1日の流れに限らず、1週間、1ヵ月等長い期間での本人様心身状況の変化を把握・確認を継続している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員が評価し、計画作成担当者はそれらを網羅すると共に入居者様の意思希望を中心に意見やアイデアを介護計画に入れ作成を行っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	見直しを行う事で確実なケアプラン作成の根拠としているが画一的な記録になりがちである。今後、入居者様を様々な側面から見てより具体的な個別記録になるよう努めていく。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	柔軟なサービス提供に努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方々からの呼びかけや事業所側からのお誘いについて交流が行われ、本人様の意向を考慮し、町内行事への参加を継続的に実施している。又、消防署とも緊急時の体制等で助言・指導を頂いている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族の方々が希望する医療機関で適切な医療を受ける事が出来るように常に支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力医療機関より2週間に1回訪問診療を実施しておりDrに同行するNsを窓口でDrの指示を仰ぐ体制が出来ている。又、1週間に1回の訪問看護も実施しており相談したり、看護を受けられる体制が出来ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者との情報交換を行っており関係作りに努めている。お見舞いを多くしていく事で安心して治療が出来るように、又不必要な入院とならないよう努めている。退院後の生活に不安が生じないように身体状況に考慮した支援を行うように心がけている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期ケアが必要な入居者の方に対しては早い段階から本人や家族の方々ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合いを行い、事業所で出来る事を説明しながら方針を共有の上、支援を進める体制が出来ている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急訓練については年1回を予定しこれまでに実施している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難誘導のマニュアルは出来ている。又消防署の協力を得て夜間を想定した避難訓練を実施している。構造上不安はある為今後も定期的に避難訓練の実施していく。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者一人ひとりの尊厳を守る為声掛けや対応を徹底している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	常に選択の場面を作り、写真等を使って選んで頂いたり、テレビや新聞・普段の会話の中からも情報や希望の把握に努め可能な限り自己決定が出来るように支援を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員のペースになりがちではあるが、その中でも一人一人のペースに合わせ又可能な限り希望をくみ取りその人らしい生活が出来るよう日々取り組んでいる。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご家族の方や訪問美容院を利用しカットやパーマをかけているが、希望により馴染みのあるお店に行くなどの対応は可能である。又服を選んで頂いたり、スカーフ等でのおしゃれの支援に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事には好みを取り入れ提供しており、会話を通してさらに好みの把握に努めている。又、下ごしらえや食器拭き等入居者と職員と一緒にっており今後も一人一人の力を見極めながら力が発揮できるよう支援していく。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の食事・水分摂取量はバイタルと共に記載し読み返せる記録として保存し緊急時には持ち出せるようにしている。摂取量の少ない方にはその方の好まれる物やエンシュア(栄養剤)等で栄養補給をして頂いている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	その時の状況及び本人様の意思により毎食後実施出来ない場合があるが、その場合もうがい等の促しを継続しており口腔状態が最善に保たれるよう支援している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	加齢ならびに認知症の進行に伴い尿取りパット・リハビリパンツを使用する方が多くなっているが排尿時間や間隔を把握しトイレで排泄して頂けるよう声掛けや誘導を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜や海藻類等食物繊維が多い食事の提供に取り組んでいる。又カスピ海ヨーグルトを提供しているが中々排便に繋がらない方もおり、今後も食事・運動への取り組みを実施し自然排便を促すよう取り組んでいく。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日は決まっていますが体調不良や拒否等もあり、入居者の方の希望や体調などに合わせて入浴日以外でも入って頂けるよう支援をしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人の生活習慣や体調等にも配慮してご本人の希望や様子を伺いながら休息して頂いたりと個別に対応している。今後も継続していく。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬管理は複数の職員で確認しており責任の所在についても明確にしている。服用方法についても決められた通りに対応している。さらに薬の変更時には等には特に注意して対応している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事活動への参加や買物、外出など力を発揮出来たり気分転換が図れるよう一人一人に合わせて支援をしている。又趣味である編み物や習字等も希望により行っている。今後も入居者の方々の生活歴等踏まえ、活躍の場や楽しみ事・気分転換が図れる場を提供していく。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	可能な限り各入居者の希望に沿った外出、玄関先やご近所への散歩を実施している。又本人様の行きたい場所を伺い日常的な外出や行事に希望を取り入れている。ご家族様と出かけられる事は少ない為今後も行事の際など参加して頂けるよう働きかけていく。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理に困難がある事と共同生活の中での盗難・紛失事故を考慮して金銭の自己管理を行っている方はいないが、希望があればご家族の方々と相談し実現出来る体制である。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご希望に合わせて支援をしている。いつでも自由にご家族の方々と電話が出来る体制にあり手紙についても同様である。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	始めに塵・ゴミを集め最後に掃除機を使用する事で生活空間に不快な機会音が長時間流れないように配慮している。光についても不快や混乱をまねくような物はなく、自然光に対してもブラインドで遮光が図られるようになっている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂のご自分の席・応接ソファ・廊下に置いてあるソファ・自室等交流を図る場と一人で過ごせる場を確保しておりその時その時でご自身のお好きな場所で過ごして頂いている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際はご自分が使い慣れ親しんだ物（家具等）を持ってこられるようお伝えし持参されている。今後もご本人・ご家族様と相談しながら好みの物を取り入れご本人にとって居心地がよく、その人らしい生活が送れるよう努めていく。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室・トイレ・浴室にさり気なく表札やポスターをつける事で失行・失認が最小限度で軽減されるよう配慮がなされている。又ユニット内の廊下や浴室、トイレには安全歩行の支えとなる手摺りが設置されている。		